

HALZ名古屋支社新体制スタート！ 坂さん・浅野さんインタビュー

昨年10月に入社した坂さん。HALZでの日は浅いものの、藤田CEOのビジョンへの共鳴は深く、熱い想いを抱いています。そんな名古屋支社に、坂さんのご紹介で浅野さんが加わります！さらに上村さん、又吉さんも加わり、いよいよ「新生名古屋支社」が立ち上がります。

名古屋支社が目指すのは、HALZの支社としての確固たる「モデルづくり」です。HALZの「あわーず」での経験を踏まえた医療特化体制の構築に加え、現在東京オフィスで行われているインターンや実習を名古屋でも展開し、より実践に近いモデルの確立を目指します。今回は、名古屋支社を牽引する坂さんと、共に支社を盛り上げる浅野さんに、今後の展望や新体制への意気込みを伺いました。



坂 隆昭さん

医療・介護分野への特化と、そのやりがい

Question

名古屋支社のこれからの展望として、「医療・介護分野への特化」を掲げていらっしゃいますね。

HALZには「あわーず」という介護事業での経験という強みがありますが、坂さんご自身もこれまでの社労士としての経験の中で、医療・介護分野に携わってこられたと伺いました。

具体的にどのような経験があり、この分野にはどんな特性があるのでしょうか？

坂さん Answer

医療や介護の世界は病院や施設が24時間365日動いており、複雑なシフト体制が敷かれているため、労務関係が非常に複雑で多岐にわたります。もうひとつの大きな特性は、医師や看護師、技師、介護士といった「国家資格者の集団」であるという点です。

現場の方々は国家資格者としてのプライドを持って働いています。一方で、その組織の中で人事・労務管理を担う「事務方」は資格を持たないことが多く、資格者集団を統率するのが非常に難しいという現実があります。ともすると事務方が現場への「御用聞き」のようになってしまい、非常に気を遣う大変なポジションに置かれがちです。

私はこれまで、そうした独特の難しさを持つ組織を見てきました。だからこそ、実務レベルで現場に携わってきた人間がお話することで、その大変さや課題感が「肌感覚」として先方に伝わると考えています。人が手を出しにくい、やりにくい大変な領域にこそあえて踏み込み、マンパワーで現場を支える方々をサポートすることには、ものすごく大きなやりがいを感じています。

HALZの魅力と、他社との圧倒的な違い

Question

お二人から見て、他の社労士事務所とHALZの違いはどんなところにあると感じますか？

坂さん Answer

一言で言えば、「本気度」と「実践力」が圧倒的に違います。多くの社労士事務所は働き方の多様性を口にはしても、実際には実践できていない旧態依然としたところが多いのが実情です。一方でHALZはリモートワークなどを実践し、その人が最も能力を発揮できる環境を許容することで、スタッフの潜在能力を発揮能力に変える環境が整っています。

単なる「父ちゃん母ちゃん」の個人事務所ではなく、同じベクトルを持った会社組織として機能している点に驚きました。また、AIの実装をフックにしてインターンを実施し、若い人材や新卒を採用できている仕組みも、他の事務所では絶対にあり得ない圧倒的な違いですね。

浅野さん Answer

私は社労士事務所での勤務経験は2年弱と浅いのですが、HALZは挑戦する人を応援してくれる組織風土があると感じています。これまでのやり方に固執せず、時代の状況に合わせて柔軟に変化できる力が身につく環境です。若いスタッフの方々からもたくさんの知識を吸収できるのが本当にありがたいですね。



AIの積極活用と「属人化」からの脱却

Question

業務におけるAI活用についてはいかがですか？

坂さん Answer

日々、AIの特性を理解しようと悪戦苦闘しながら使っています。使ってみて痛感したのは、「ゴールイメージ」を持たずにAIへぶん投げてはいけないということです。自分がどうしたいのか、しっかりとした意思を持って指示出しをしないと、人間がいる意味がなくなってしまうです。

私が実現したいのは、業務の「属人化・ブラックボックス化」を防ぐことです。担当者が辞めると仕事が回らなくなるという事態を防ぐため、AIを活用して業務構造を「シンプル・イズ・ベスト」にしたいんです。誰でも手を出せる代替可能な仕組みを作れば、引き継ぎのコストも減り、離職率の低下や定着率の向上に繋がります。そこで捻出できた時間を、医療・介護分野への「攻め」の営業に振り向けていきたいですね。



プライベートな一面（趣味・休日の過ごし方）

Question

話題を変えて、お休みの日の過ごし方や趣味について教えてください。

坂さん Answer

マラソンやジョギングが好きで、タイム（速さ）ではなく「完走回数」という減らない数字を追いかけて楽しんでいます。47都道府県すべての大会に出場するのが目標です。HALZ内でも、ハードルの高い「マラソン部」ではなく、歩いても会話してもOKな「ジョギング部」として、輪を広げたいと思っています。歴史部やウォーキング部と合同で関ヶ原をウォーキングするなど、家族や子どもも巻き込んでワイワイ過ごし、皆の「明日の活力」になるような場を作りたいですね。

浅野さん Answer

最近の本を読むのが趣味で、夫の影響で読むようになりました。最近では歴史小説の「木挽町のあだ討ち」を読んでいます。また、子どもと一緒にアニメや映画を見るのも好きです。ジャンル問わず色々な作品に触れ、フィクションを通じて心が動かされたり、自分の感情が言語化されたりする瞬間に喜びを感じています。

新体制へ向けた意気込み

Question

最後に、新体制に向けた意気込みをお願いします！

坂さん Answer

「討ち死にしてもいい」ぐらいの覚悟を持って最前線に立ち、攻めていくしかありません。
「できる・できない」を考えている余裕はなく、もうやるしかない、一歩出るしかないと思っています。

今回、浅野さんをはじめ、以前から一緒に仕事をしていて能力や人柄がわかっている元同僚たちとスタートできるのは、本当に大きなアドバンテージです。相手の力量を探るスタート時のストレスや時間のロスがない分、自分のやるべきことに集中して、しっかり仕事を取っていきたいですね。

浅野さん Answer

経験や知識が浅い分、不安や壁を感じることもあるかもしれません。
しかし、それを単なる壁と捉えるのではなく、自分自身のスキルアップや成長のための「通過点」と捉えて乗り越えていきたいです。「自分にはこれしかできない」と限界を決める大人にはならず、時代に合わせて柔軟に知識をアップデートしながら、チームで名古屋支社を盛り上げていきます！

【編集後記：新生・名古屋支社、いよいよ本格始動へ！】

前号の名古屋出張レポートから続く今回のインタビュー、いかがでしたでしょうか。

今回の名古屋出張における私の最大のミッションは、坂支社リーダーのもとで「支社運営・チームづくりのモデル」を新名古屋メンバーと共に作っていくという、会社の熱い意思を皆様に伝えることでした。出張の際、観測史上最速の桜を咲かせた名古屋の気候以上に、坂リーダーの言葉から溢れる圧倒的な熱量に触れ、名古屋支社の飛躍を肌で確信しました。



そしてこの4月より、浅野さんに加え、上村さん、又吉さんも正式にメンバーとして加わり、いよいよ「新生名古屋支社」が本格始動します！

医療・介護特化という難易度の高い領域に「討ち死にしてもいい」というほどの覚悟で挑む坂リーダー。そして、その背中を追いかけて柔軟に成長を目指す新しい仲間たち。お互いの長所や人柄を知り尽くした最高のチームだからこそ生み出せる、圧倒的なスピード感と実践力に期待が高まります。

HALZの新たな最前線となる名古屋支社の快進撃を、全社一丸となって応援していきましょう！